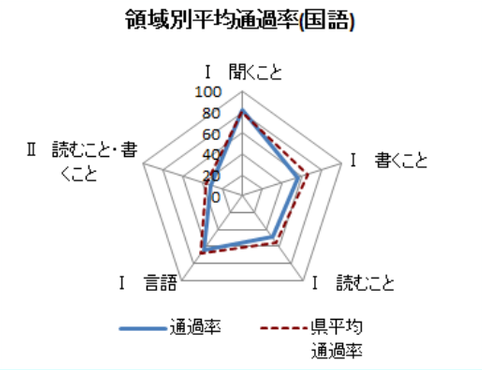
指導方法等の改善計画について　〔 国 語 〕

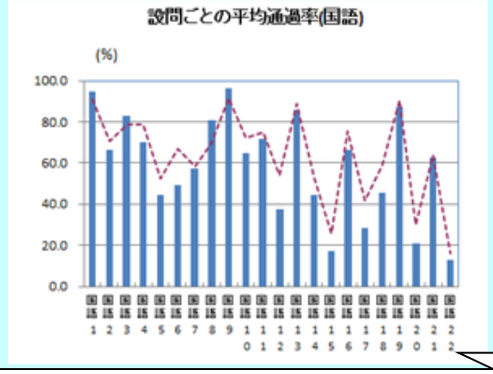
呉市立昭和西小学校

「基礎･基本」定着状況調査　本年度通過率　（本校　58.4%，県　63.7%）

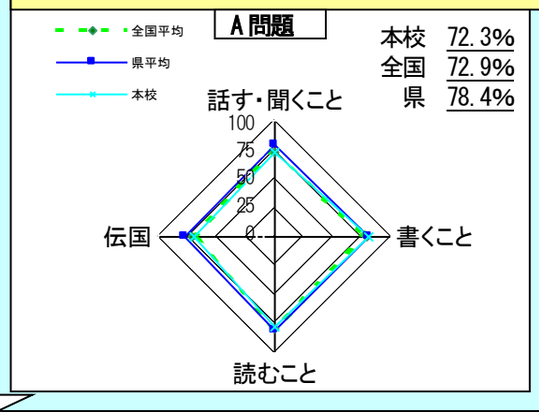
領域別平均通過率

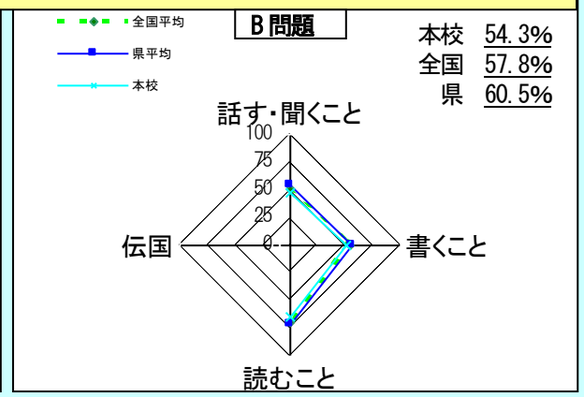


設問ごとの平均通過率



全国学力･学習状況調査　本年度正答率





重点課題　◎「基礎・基本」定着状況調査　◇全国学力・学習状況調査

◎設問三７ 中心となる語や文を把握することに課題がある。「だれもがくらしやすい社会」と解答できているが「生きる喜び」と解答できなかった児童が27.3%。「つまり」「このように」といった要旨を説明する段落をとらえることができずに別の段落から言葉を取り出した児童が37.7%いる。（通過率16.9%　無解答率14.3%）

◎設問四２(１) 目的に応じて記述することに課題がある。文を二つに分ける場所は理解していても前半部分を文として書き換えることができない児童や，問題文とは関係のない文を引用して解答している児童が 42.9%いる。（通過率28.6%　無解答率7.8%）

◇B設問2二(２) 目的や意図に応じて，表を基に自分の考えを書くことに課題がある。「解決方法」を記述する必要があるのに，「方法」に関する記述になっていなかったり，３つの条件のうち，すべての条件を満たしていなかったりする解答が多い。（正答率60.0%　無解答率6.3%）

◇B設問3三 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。誤答では，「苦労」と「喜び」のうち，「喜び」のみを取り出して記述しなければいけないのに「喜び」だけでなく「苦労」まで入れて記述したり「喜び」の内容とは全く関係ないものを書いていたりする内容の解答が多い。また，３つの条件のうち，１つまたは２つの条件しか満たしていない児童が全体の 20.1%であった。（正答率 51.3%　無解答率13.8%）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業等）

◎低学年においては，時間を表す言葉や接続詞に着目させる学習を通して，時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体の意味を捉える力を付けていく。中学年においては，指示語や繰り返し語句，文末などに注目させて段落の要点をとらえたり，接続語を根拠に段落の関係を考えたりする学習を通して，中心となる語句や文，段落相互の関係を捉える力を付けていく。高学年においては，具体的な内容と抽象的な表現を読み分けたり，文章構成から結論の段落をつかんだりする学習を通して，筆者の考えを捉える力を付けていく。

◎低学年においては，主語にあたる部分と述語にあたる部分を互いに対応させながら読む学習を通して，内容の大体の意味を捉える力を付けていく。中学年においては，登場人物の心情がよくわかるように音読するなどの学習を通して，人物の行動に基づいて場面の様子を捉える力を付けていく。また，相手に伝えるために必要な主語と述語の関係に注意して話したり書いたりさせながら，文のつくりに関する理解を深めていく。高学年においては，登場人物同士のかかわり合いを叙述を基にとらえて関係図に表す学習を通して，登場人物の相互関係を捉える力を付けていく。

◇活動報告文の学習において，「成果」「課題」「解決方法」の書き方について，それぞれどのような特徴があるのか見付けさせ，それに沿って文章を記述させる。また，国語科を中心に観察・実験・調査して得られた結果などの事実を図表やグラフで表し，事実や結果などの根拠を示しながら自分の考えを記述する問題に継続的に取り組ませる。

◇無解答の児童においては，普段から文章を書き慣れていないと考えられる。国語科だけでなく，各教科等においても言語活動を充実させ，まずは自分の考えを書かせることから始める。自分の考えを書くとき，その根拠や理由を明確にすることも指導する。また，条件に合わせて記述する問題では，複数の条件を満たすことができない児童には，何を条件として挙げられているのか，問題文や資料に印をつけるなどの方法を具体的に指導し，問題に取り組ませる。

※小中一貫した取組については，目的や意図に応じて，読むことと書くことを関連付けた学習展開を工夫するとともに，グループでの話し合い活動の充実を図り，深まった内容を明確に書く力をつける。

◎「基礎・基本」	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法			５年生 「基礎・基本」Ⅰ	４年生 「基礎・基本」	５年生 「基礎・基本」Ⅱ	３年生 「基礎・基本」	４，５年生 学年末評価テスト
目標値			７０％	５０％	４５％	４５％	８０％　７０％
実施後数値			９４％	６２％	８５．２％	４８．７％	84.4%　74%

◇全国学力	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法			６年生 全国学力Ａ	５年生 全国学力Ａ		５年生 全国学力Ｂ	
目標値			８０％	７０％		５０％	
実施後数値			８２．３％	７５．５％		７１．３％	

来年度に向けて

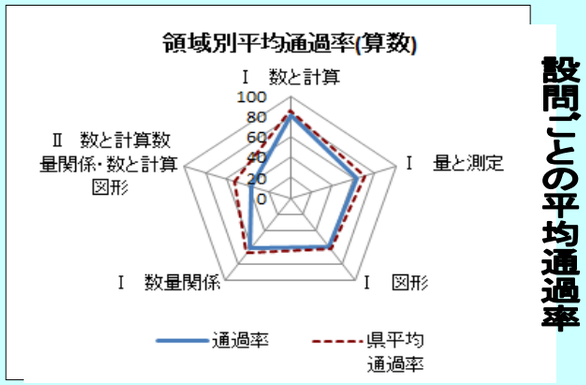
授業では，読むことと書くことを関連付けた学習展開を工夫し，グループで話し合った内容を書くようにさせる。目的に応じて根拠を示しながら，自分の考えを記述する問題に継続的に取り組ませ，特に，西風タイム(習熟度別学習)で，考えを書くポイントや書く条件を見付ける方法を具体的に指導する。

指導方法等の改善計画について　〔 算 数 〕

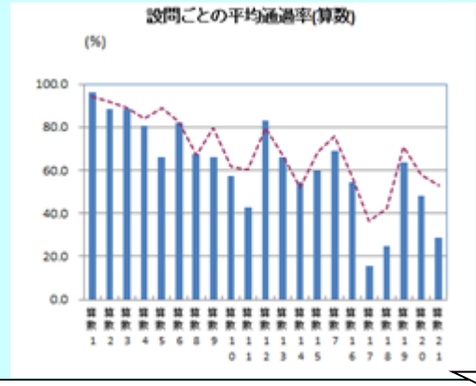
呉市立昭和西小学校

「基礎･基本」定着状況調査　本年度通過率　（本校 62.0%, 県 69.4%）

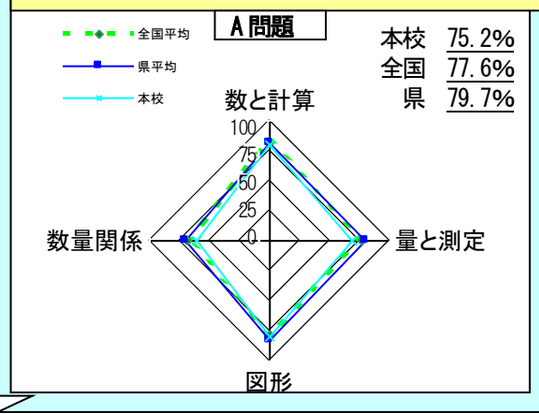
領域別平均通過率

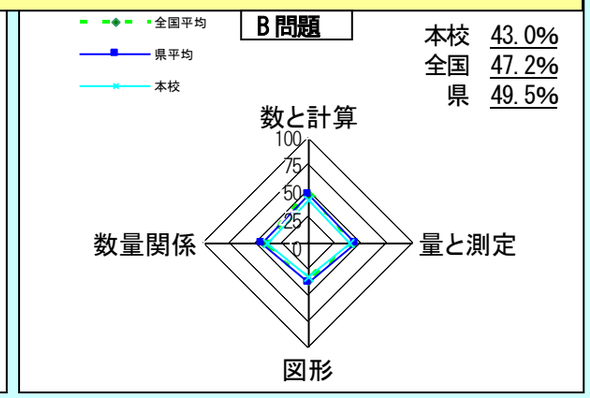


設問ごとの平均通過率



全国学力･学習状況調査　本年度正答率





重点課題　◎「基礎・基本」定着状況調査　◇全国学力・学習状況調査

◎設問11(2) 平行四辺形の性質を活用することに課題がある。(正答率 48.1%)　誤答としては「向かい合った辺が平行だから」を選択した児童が全体の 29.9%もいた。平行四辺形の性質を分かっていても，それを題意に応じて活用することができていない。

◎設問11(3) 根拠を明らかにして筋道を立て，算数的用語を使って説明することに課題がある。(正答率 15.6% 無回答率 3.9%) 誤答としては，説明に根拠が不十分であるものが全体の 13%となっている。情報を整理し，判断の理由を説明することが苦手な児童が多い。

◇B4(3) ２つの折れ線グラフを見比べ，記述した内容が正しくない理由を「貸出冊数」に着目して，言葉や数を使って記述することに課題がある。(正答率 25.0%　無解答率 20.0%) 誤答のうち，「貸出冊数」に触れていない解答が全体の 45.1%と多く，「貸出冊数」に着目できていなかったり，着目していても数を用いてどのように表現したらよいか理解できていなかったりする児童が多い。

◇B5(1) 示された形をつくることができることを説明する式の意味を，数や演算の表す内容に着目して書くことに課題がある。(正答率 3.8%　無解答率 25.0%) 誤答としては，３６０÷１２０の「３６０」と「１２０」に関する記述は正答であるが，答えの「3」が何を表しているか算数的用語を用いて記述できていない解答が多い。(全体の 50.1%) さらに，「３６０」や「１２０」についても正しい算数的用語を用いて記述することができない解答が多い。(全体の 30.1%) また，図形を多面的に見て，必要な構成要素を正しく捉えることができにくい。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業等）

◎既習の図形の性質に基づいて作図したり，弁別したりする活動に取り組む場を設ける。その際，「直線の位置関係」や，「辺の長さ」に着目させるようにする。また，平行四辺形，ひし形，台形で平面を敷き詰める活動を行い，図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目させて図形の実感的な理解を深めていく。西風タイムにおいては，定義や性質を基に図形をとらえることができるように，図形領域の内容の学習を月に１回「ルートくれ」を用いて行う。

◎学年に応じた言語活動にかかわる算数的活動を意図的に設定する。低学年においては具体物を操作して順序よく説明させる。中学年においては，図や式に表しながら算数的用語を用いて説明させる。高学年においては　図や式，表やグラフを用いて根拠を明らかにして筋道を立てて説明させる。西風タイムにおいて文章や図の中から大切な情報を抜き出して整理して読み取る練習を行う。

◇グラフの読み取りができるように，グラフを見て気付いたことを根拠を明確にしながら説明する場を設ける。その際，複数のグラフを提示し比較する場面を取り上げ，根拠になる部分がグラフのどの部分であるか印をつけさせたり，数を書かせたりして具体的な方法を示す。また，「変化の大きさ」や「増え方の大きさ」などの何に着目して考察するかを明確にする。さらに，グラフを多面的に分析する力の定着を図るために，西風タイムにおいて数量関係領域の内容の学習を月に１回「ルートくれ」を用いて行う。

◇算数科の授業において，図形の定義を正確に押さえた上で，教師自身が適切に用いたり児童に正確に表現（話す・書く）させたりする。文章問題において立式をした場合，「なぜ，その式になるのか」問題文など根拠を明らかにするとともに，できた式において一つ一つの数が何を表しているのかを考えさせ，算数的用語を用いてまとめ，それをノートに記述させ意味理解を深める。また，図形の構成要素を多面的に捉えることができるように，西風タイムにおいて図形領域の内容の学習を月に１回「ルートくれ」を用いて行う。

※小中一貫した取組については，身近にある伴って変わる二つの数量の関係について図，式，言葉などを使って根拠を示しながら説明する学習を仕組んでいく。そのために，グループ活動などで自分の意見を根拠とともに発表させる場面を設ける。

◎「基礎・基本」	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法			５年生 「基礎・基本」Ⅰ	４年生 「基礎・基本」	５年生 「基礎・基本」Ⅱ	３年生 「基礎・基本」	４，５年生 学年末評価テスト
目標値			７５％	６０％	５０％	５５％	８０％　７０％
実施後数値			７６．４％	６２．３％	７１．１％	６８．３％	87.9%　75.1%

◇全国学力	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法			６年生 全国学力Ａ	５年生 全国学力Ａ		５年生 全国学力Ｂ	６年生 学年末評価テスト
目標値			８５％	７５％		５５％	７０％
実施後数値			８６．２％	７５．３％		７８．７％	７７．０％

来年度に向けて

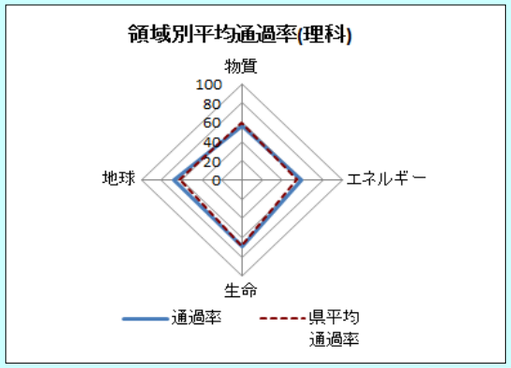
授業においては，西小学習パターン（課題解決的学習）に沿った学習展開を行う。特に，集団解決の場面では，説明や論述を通して思考力・表現力を高める指導に重点を置く。また，理解度・定着度の低い児童に対しては，放課後や朝学の時間の個別指導や定着の状況に応じた家庭学習を実施する。

指導方法等の改善計画について　〔 理 科 〕

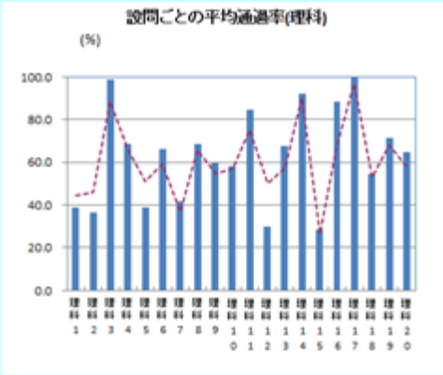
呉市立昭和西小学校

「基礎･基本」定着状況調査　本年度通過率　（本校　62.9%，県　60.6%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



重点課題　◎「基礎・基本」定着状況調査

◎①設問5（2）昆虫の食べ物から口の形の特徴を推測することに課題がある。選択肢から正しい解答を選択できても，なぜそうなのかという理由を正しく記述できていない児童が，39.9%である。

（通過率 29.9%）

◎②設問7（1）かげの位置の変化と太陽の動きとを関連付け，正午にかげができる位置を推測することに課題がある。特に，判断理由についての記述が不十分な児童は，54.6%である。

（通過率 28.6%）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業等）

◎①昆虫の体についての学習では，実際に見たり触れたりするなど直接観察することを重視し，生物の特徴を諸感覚を通してとらえられるようにする。その際，複数の種類を比較して観察させ，共通点や相違点を考察させるとともに，それらを自分の言葉で表現させるようにする。また，昆虫と植物の生育する場所を関連させ，生物はその周辺の環境とかかわって生きていることをとらえられるようにする。

◎②太陽が東の空から南，西の空へと動いていくことを，かげを見つけたりかげで遊んだり，かげをつくったりするなどの体験に基づいて理解できるようにする。また，太陽の動きに伴って変化する日陰の位置を考察させるなど，自分の言葉でまとめさせるようにする。

※小中一貫した取組については，各単元における用語についてその意味の正しい理解を図るために，授業の振り返りの場面で，用語を正しく使った学習のまとめを行わせるとともに，グループ内での交流の場面を設ける。

◎「基礎・基本」①	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法	３年生 単元末テスト	４年生 小テスト	５年生 小テスト		４年生 H28「基礎･基本」		４，５年生 学年末評価テスト
目標値	８０％	７０％	７０％		７０％		８０％
実施後数値	９１．２％	７６．０％	７１．２％		７２．８％		93.3%　87,8%

◎「基礎・基本」②	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法	４年生 小テスト	３年生 単元末テスト	６年生 小テスト	５年生 小テスト	５年生 H27「全国学力」		４，５年生 学年末評価テスト
目標値	７０％	８０％	７０％	７０％	６５％		８０％
実施後数値	７３．７％	９１．５％	７６．２％	７５．６％	６５．７％		93.3%　87,8%

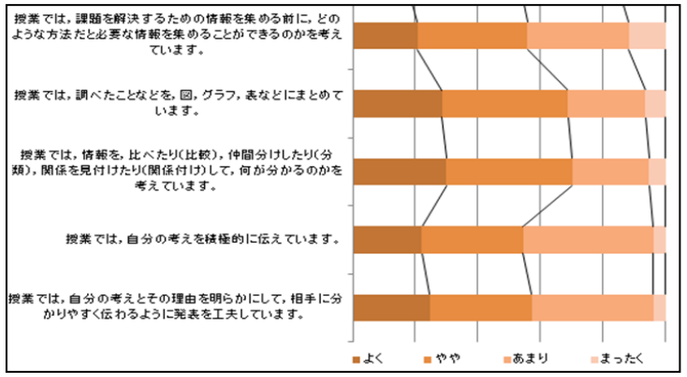
来年度に向けて

具体的な体験を通して実感を伴った理解ができるように，計画的に観察，実験を行う。また，問題解決の能力を育成するために，観察，実験の結果を整理したり考察したりする活動に重点を置くように，授業改善を一層進める。

２　質問紙調査　（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）　（全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査）

（１）生活・学習

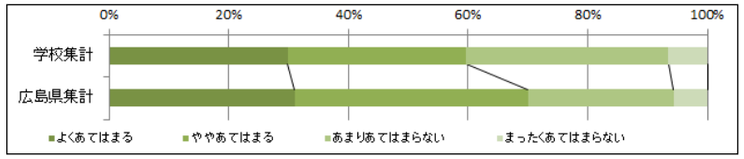
「課題発見・解決学習」（１）



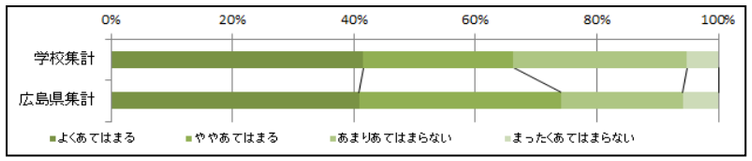
	児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
基礎・基本	授業では，自分の考えを積極的に伝えていない。54.5%	自分の考えを表出する場や時間を確保する。ペアやグループ学習の中で発表した考えを全体の場で集約し，学習意欲や課題解決の達成感を高めていく。	５年	６０%	児童アンケート調査	12 月	86. 8%	32. 3%
全国	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ではない。40.7%	ペアトークやグループ学習等，少人数で自分の意見を発表する場を増やし，発表の方法の習熟を図る。	６年	５０%	児童アンケート調査	12 月	65. 4%	24. 7%

（２）教科

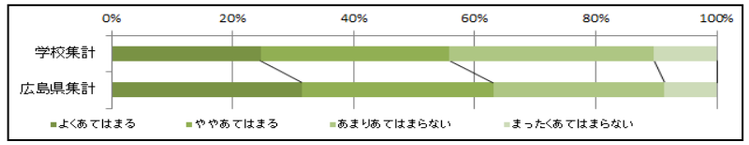
国語の授業では，目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしています。



算数の授業では，とき方や考え方を絵や図などに表して考えています。



理科の授業では，自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



		児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
国語	基礎・基本	目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていない。59.7%	何を求めて資料に当たるのかという目的意識を明確にさせる。重要な語句やキーワードをとらえさせ，簡潔に整理することを指導する。	５年	６５%	児童アンケート調査	12 月	89. 4%	29. 7%
	全国	意見などを発表するときに，うまく伝わるように話の組み立てを工夫していない。37.1%	学校生活全般において，理由や根拠を示して自分の意見をはっきりと伝えさせるようにする。	６年	５０%	児童アンケート調査	12 月	72. 8%	35. 7%
算数	基礎・基本	解き方や考え方を絵や図などに表して考えていない。66.2%	個人思考の場で絵や図を使って考えを表せるよう時間を確保し，それを解決の場で活用していく授業展開を工夫する。	５年	７０%	児童アンケート調査	12 月	81. 5%	15. 3%
	全国	学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えていない。54.3%	各単元において身の回りで使われている具体例を示し，関心をもたせる。	６年	６０%	児童アンケート調査	12 月	67. 9%	13. 6%
理科	基礎・基本	自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていない。55.8%	学習の課題を明確にし，それに対する自分の考えをもたせるようにする。ペアやグループ学習の場で自分の考えを表す機会を増やし，進んで意見交流をしようとする意欲を高める。	５年	６０%	児童アンケート調査	12 月	82. 8%	27. 0%